令和７年度　社会福祉法人こうち福祉会事業報告

法　人　本　部

1. 法人理念・総括

・障害をもった人たちの願いを大切にし、地域の中で「生き生きと働ける場所」の保障をめざします。
・障害をもっていても、地域社会で共に暮らし、ゆたかな人生を送れるよう、その発達を保障する場にします。
・障害者の権利を守り、豊かな暮らしをめざし、ノーマライゼーションの理念に基づく地域福祉の向上に努めます。

２．理事会開催と審議事項

開催年月日	審議事項	備考（出席者数）
R7.4.27	【緊急】　① 弁護士の選任	理事４名、監事２名
R7.5.31	① 令和６年度　事業報告（重要案件　虐待事件について） ② 事件の今後の対応 ③ 令和６年度　決算報告 ④ 就業規則の変更 ⑤ 任期満了による理事、監事、第三者委員候補 ⑥ 任期満了による評議員候補 ⑦ 評議員会招集事項	理事４名、監事２名
R7.6.15	① 理事長の選任 ② 業務執行理事の選任	理事６名、監事２名
R7.6.29	【緊急】　① 継続緊急事案について	理事５名、監事２名
R7.8.31	① 虐待事件　その後の経過 ② 職員の解雇事案 ③ 懲罰委員会	理事５名、監事２名
R7.10.5	① 職員解雇事案 ② 理事辞任に伴う後任候補の選任 ③ 評議員の理事推薦による後任候補の選任 ④ 評議員会の招集	理事５名、監事２名
R7.10.19	① 第一回口頭弁論 ② 就業規則の改訂 ③ 国庫補助金交付決定（報告事項）	理事５名、監事２名

開催年月日	審議事項	備考（出席者数）
R8.1.18	① 1月15日の公判について（報告） ② 慶弔規程について ③ 理事逝去に伴う後任理事候補の選任 ④ 統括責任者の選任 ⑤ 業務執行理事の選任 ⑥ 社会保険労務士の契約について ⑦ 評議員会招集事項の決議について	理事3名、監事2名
R8.3.29	① 社会保険労務士の契約について ② 統括責任者の選任 ③ 利用者　略式命令について ④ 不動産（土地）取得について ⑤ 令和7年度　第二次補正予算案 ⑥ 令和8年度　事業計画案 ⑦ 令和8年度　予算案	理事5名、監事1名

３．評議員会開催と審議事項

開催年月日	審議事項	備考（出席者数）
R7.6.15	① 令和6年度　決算報告 ② 任期満了に伴う理事、監事、第三者委員の選任 ③ 行政指導について ④ 再発防止策について （報告事項） (1)　理事会への提言（公文理事） (2)　利用者による事故報告について (3)　職員の解雇事案 (4)　技能実習生について	評議員6名、監事2名
R7.10.19	① 理事辞任に伴う後任理事の選任 ② 第一回口頭弁論について ③ 就業規則の改訂 （報告事項） (1)　国庫補助金交付決定について	評議員6名、監事2名
R8.2.1	① 理事逝去に伴う後任理事の選任	評議員6名

総　務　部

川越　香織

１．実施内容

・人材育成採用・・・・・・・・新入社員採用・新人研修
・ICT 関連・・・・・・・・・・PC 総入れ替え
　　ラインワークス⇒令和８年３月～試験導入

２．成果・状況

・新人研修・・・・・・・・・4/1・6/1・7/24　　入職時期を考慮し３回実施。
・新人職員聞き取り・・・・・7 月・10 月　　２回に分けて聞き取りを全新人職員対して実施。
・短大・専門学校への求人活動・・・・・・・・・10 月に３回に分けて訪問し求人活動。
・パソコン必要数総入れ替え・・・・・・・・・・11 月
・ラインワークス試験導入・・・・・・・・・・・令和８年３月～4 月末まで

利用者健康診断実施日

	センター	蒼空舎	ファクトリー	第２あおぞら	春乃群青
西病院	9/4	9/2・9/9・9/16・9/17・9/18	10/2・10/9	9/25	9/9・10/9

職員の健康診断については、１０月、１１月に実施。（受診できなかった職員に関しては年度内受診）

３．総括・今後の課題

◎令和７年度は、人材育成と ICT 関連の動きが重点的に行われた。
人材育成については、新人職員の方への採用後の聞き取りを踏まえ定着へ繋がるように労働環境のの見直し等も行った。結果としては高い確率で新人職員の定着に繋がっている。
ICT に関しては、業務の効率化や簡素化の為のプログラマーの方と契約する提案やラインワークスの試験導入が行われた。総評として前向きな意見が多かった為、令和８年４月～プログラマーの方と年契約で契約を行い業務の効率化や簡素化の為の動きを行い、令和８年５月～ラインワークスの本契約を今後は行って行く事になった。

【今後の課題】
・令和９年度に新しいグループホームの建物が２棟増える事で職員の増員が必須である。必要な人数等を精査し令和８年度に開催される福祉就職フェア等へ参加をする事で採用に繋げていく。
・業務の効率化や職員間の連絡の簡素化を図るために ICT を活用した取り組みが現在順次行われている。令和８年度中にはこの取り組みに関してすべての段取りが終わり実施⇒活用⇒定着へと繋げていく。

研　修　部

林　愛佳

１．実施内容



・法人内外の研修案内及び受講支援を行い、職員の専門性向上に取り組んだ。
・法人全体研修を実施し、虐待防止・身体拘束適正化、BCP、感染、苦情等について学ぶ機会を設けた。また、各事業所へ研修情報の周知を行い、強度行動障害支援者養成研修や介護福祉士実務者養成研修、サービス管理責任者研修等の受講支援を行った。
・これまで、勤務体制や業務上の都合により、全職員が集合研修へ参加することが難しい状況が課題となっていたことから、ｅラーニング研修「リーオンミー」を試験的に導入した。

２．成果・状況

・法人全体研修や各種研修への参加を通して、支援方法や権利擁護、障害特性理解について学ぶ機会につながった。
・ｅラーニング研修「リーオンミー」については、365 日いつでも・どこでも視聴できる手軽さがあり、勤務状況に応じて受講できる環境づくりにつながった。これまで集合研修への参加が難しかった職員についても、研修へ触れる機会を持つことができ、支援の質の底上げや学びの機会の確保につながった。
・外部の集合研修へ参加することで、他法人・他事業所の職員とのつながりや情報交換の機会となり、他施設の取り組みについて学ぶ機会にもつながった。
・事業所別研修　別紙参照



３．総括・今後の課題

利用者の重度化・高齢化及び支援ニーズの多様化に伴い、より専門的な支援力や障害特性理解が求められている。一方で、勤務体制や業務状況により、全職員が集合研修へ参加することが難しい状況も継続した課題となっている。

今後は、ｅラーニング研修「リーオンミー」を継続的に活用し、職員が学びやすい環境づくりを進めながら、法人全体の支援力向上及び支援の統一につなげていく必要がある。

また、外部の集合研修等にも積極的に参加し、福祉職員としての横のつながりを深めるとともに、他法人の取り組みや支援方法について学び、法人内の支援へ還元していく必要がある。

防　災　部

伊東　昌彦

１．実施内容

・各事業所による避難訓練や計画書等の見直し、行政等による会議や研修会、訓練に参加。
・防災訓練の一環として、炊き出し訓練実施。
・南海トラフに備えて、３月に起震車体験を実施。





２．成果・状況

・各事業所の避難訓練は、消防法に基づき原則として年２回以上の実施は行われているので、問題はない状況。
計画書等の見直しは
・炊き出し訓練は、毎年１１月に実施する事にしており、今回が２回目になる。配食部（作業食）と連携して、鉄板を使った「お好み焼き」を実施し、調理には課題もあったが無事やり遂げた。
・起震車体験について震度７の激しい揺れを体験する事により、普段では見る事の出来ない利用者の様子も見れて、南海トラフ対策にも繋がっていく。

３．総括・今後の課題

・当法人の防災部は、他法人に比べて大きく出遅れている現状にある。まずは職員の防災に対する意識を向上していけば、改善しいくのではないかと考える。当たり前の事だが、各事業所にいる防災部担当者を主として責任を持って行ってもらい、まずは各事業所で話し合いをしてもらい、部会には定例会にて報告をしていく。これは各事業所が各地にあり、災害の度合いや状況が異なる事や、利用者の事はその利用者を日々見ている職員がよく理解している為、対応策を講じやすい事にある。また、所属している部署の職員が、一番自分の所属先の所を理解していく事にも繋がっていけるとの思いもあり、判断力や行動力が増せば個々の防災に対する意識が高まっていくと思います。

事　業　部

宮内　知志



１．　実施内容

・高知県、その他各地域のイベントに積極的に参加。
・法人内のイベントとして、流しそうめんを実施した。（春の群青は除いて実施）

２．成果・状況

・地域イベントおよび法人内のイベントを通じて、地域とのつながりを強化し、内部交流も深めることができた。
・法人全体のもちつき大会をギリギリまで計画を進めていたが、前統括施設長の逝去を受け、法人内で協議した結果、開催を自粛する判断となる。



３．総括・今後の課題



・法人全体のイベントについては各事業所の利用者・職員の負担、法人全体の運営状況を十分に鑑みたうえで、開催の可否を慎重に判断していく必要がある。また、急な状況変化にも対応できるよう、事前の情報共有や実施体制の整備を進めるとともに、業務や判断が特定の職員に偏ることのないよう属人化防止に努める。利用者が安心して参加できる行事運営体制の構築を図る必要がある。

給　　食

厨房：久米　ゆかり



１．　実施内容

・年４回作業食部会を開き、各事業所の給食についての要望などの意見を聞き、防災部会にも参加し災害食ついて話しあった。
・利用者への嗜好調査や作業食の会議での意見を献立や食事形態に取り入れた。
・「HACCP に沿った衛生管理」の継続と、感染症対策をした。

２．成果・状況

・行事食や旬の食材を取り入れ、毎日の食事を食べやすく工夫する事ができた。
・誤嚥の心配な利用者さんや手の不自由な利用者さんにはきざみ食にする事で、現場の負担を軽減するように努めている。
・アレルギーの利用者さんには、専用弁当箱を準備し、トラブルの改善につながった。
・災害食については、年１回炊き出し訓練をし、保存がしやすい材料で簡単にできるメニューを考え、おにぎり、ひじき入りお好み焼き、切干大根のナムルを作った。ボリューム感もあり、喜ばれた。
・感染症対策としては、日々のチェックをする事で、食中毒などの事故を防ぐ事ができた。

３．総括・今後の課題

急な災害時等に対応していくため、給食の提供体制をマニュアル化し、備蓄品（水,アルファ米、簡易食品等）を備え、災害時メニューの作成、ローリングストック方式を考えていく必要がある。

相談・苦情窓口

相談・苦情委員会：黒沢　圭子

１．　実施内容

令和７年度の相談・苦情処理件数は２件であった。

１件目は、令和７年11月に、相談支援専門員の対応について、「もっと丁寧に対応してほしい」「関わりが少ない」との相談が高知市障がい福祉課へ寄せられ、障がい福祉課より連絡を受けたものである。苦情受付担当者が本人及び母親より聞き取りを行い、状況確認を実施した。今後については、利用者や家族への丁寧な対応を意識して、行っていくことを確認し、対応を行った。

２件目は、令和８年２月に、グループホーム利用者の母親より相談を受けたものである。同室利用者が喫煙者であり、本人が嫌がっていることや、副流煙への不安について相談があった。対応として、居室の変更を行い、生活環境の調整を実施した。

また、群青での不適切支援に関する内容については、支援状況や対応経過を整理したうえで、第三者委員へ相談を行った。第三者委員からは、利用者の権利擁護や安心して生活できる環境づくりの視点から助言を受け、支援のあり方や、組織としての対応について確認を行った。

苦情解決体制の整備として、苦情解決規程の見直しを実施した。また、各事業所における掲示物や苦情受付箱の設置状況の確認を行い、苦情受付箱及び受付用紙を法人内で統一した。その後、利用者への周知として、苦情受付の概要、苦情受付箱、苦情受付担当者、第三者委員について説明及び報告を行った。さらに、令和７年６月に実施した法人研修において、法人内の苦情解決体制の周知及び苦情解決規程の確認を実施した。

２．成果・状況

相談や苦情に対して、本人及び家族からの聞き取りを丁寧に行い、状況把握に努めながら対応を実施した。相談支援専門員に関する相談については、利用者や家族への関わり方や対応について見直しを行い、より丁寧な対応を意識する機会となった。また、グループホームでの生活環境に関する相談については、居室変更を行うことで、本人及び家族の不安軽減につなげることができた。

第三者委員へ相談を行うことで、外部の視点から助言を受ける機会となり、適切な対応や支援の振り返りにつなげることができた。

また、苦情解決規程の見直しや、苦情受付箱・受付用紙の統一を行うことで、法人全体として相談苦情体制の整理及び統一を図ることができた。利用者への周知や法人研修を通じて、苦情解決体制についての理解促進や職員の意識向上につながった。

３．総括・今後の課題

令和７年度は、利用者や家族からの相談・苦情に対し、状況確認や聞き取りを行いながら対応に努めた。また、必要に応じて第三者委員への相談も行い、支援内容や対応方法について振り返る機会となった。

一方で、苦情解決委員会の開催や、相談・苦情内容を組織的に共有する体制については、十分に整備・実施できていない面もあった。また、日々寄せられる利用者や家族からの相談や意見について、どの段階で「相談」として扱い、どの段階で「苦情」として正式に受付・記録するのか、職員間で判断に差が生じる可能性がある。

今後は、利用者や家族が安心して相談できる環境づくりを進めるとともに、苦情解決規程の見直しや受付体制の統一、利用者への周知を行っていく必要がある。あわせて、虐待防止委員会との連携を図りながら、相談・苦情の共有方法や対応基準について法人内で共通理解を深めていくことが課題である。

虐待防止・身体拘束

虐待防止・身体拘束委員会：林　愛佳

１．実施内容

・虐待防止委員会及び身体拘束適正化委員会を開催し、法人内での支援状況の共有や支援の振り返りを行った。
・虐待防止チェックリストを全職員対象に実施し、不適切支援の未然防止及び職員の権利擁護意識向上に取り組んだ。
・ヒヤリ・ハットや日常支援場面での気づきについても共有を行い、事故や不適切支援の未然防止に努めた。
・高知市へ不適切支援として１件の報告をした。

２．成果・状況

・虐待防止チェックリストを実施することで、法人全体の支援状況や課題について把握する機会となった。また、各事業所で結果共有や振り返りを行い、支援方法や利用者への関わり方について話し合う機会につながった。
・職員間で意見交換を行うことで、不適切支援の未然防止や権利擁護意識の向上につながり、相談しやすく風通しのよい職場づくりを意識する機会となった。
・不適切支援事案については、高知市への報告及び事実確認を行い、支援内容や関わり方について振り返る機会となった。また、個人の責任追及だけではなく、支援体制や環境面を含めて検討を行うことで、利用者理解や支援方法の見直しにつながった。
・身体拘束については、全事業所での実施はなかった。

３．総括・今後の課題

・利用者の高齢化・重度化及び支援ニーズの多様化に伴い、より専門的な支援力や職員間での支援共有が求められている。また、身体拘束については身体的な制止だけではなく、言葉による制限や利用者の意思を抑制する関わりも含まれることを継続して認識していく必要がある。

・ヒヤリ・ハットについては事故報告だけではなく、不適切な言葉がけや支援場面についても共有し、職員同士が相談・指摘し合える風通しのよい職場づくりが求められる。
・虐待という大きな言葉だけで捉えるのではなく、日常支援の中にもグレーゾーンが存在することを意識し、支援を振り返る姿勢を継続していく必要がある。また、不適切支援の未然防止のためには、職員が一人で悩みや負担を抱え込まない環境づくりも重要であり、日々の業務負担軽減や相談しやすい体制づくり、メンタルヘルスへの配慮についても継続して取り組んでいく必要がある。

感　　染

感染委員会：清藤　美和



1．実施内容

・感染委員会を毎月開催し、法人全体で感染予防に取り組んだ。
・各事業所（日中、GH）では、感染研修・訓練を各 2 回／年、BCP 訓練を 1 回／年実施した。相談事業所では、感染研修・訓練を各 1 回／年、BCP 訓練を 1 回／年実施し、感染予防に対する意識向上に努めた。
・感染研修における手洗い訓練では、職員・利用者ともに取り組み、感染予防の徹底を図った。
・吐物処理セットを各事業所に常備した。
・感染予防基礎研修を受講した。





2．成果・状況

・手洗い訓練では、利用者にも普段どおりに手洗いを行ってもらい、その後に手洗いチェッカーを使用することで、洗い残しの部分が可視化され、利用者自身にも洗えていない箇所が分かりやすかった。
・ノロウイルスを想定した訓練では、少人数体制時における職員対応について課題が明確になった。
・吐物処理セットの内容を確認し、不足物品を補充した。また、各事業所へ設置し、保管場所の確認を行った。
・感染予防基礎研修を受講したことで、吐物処理の手順を学び、吐物処理手順書を作成した。

3．総括・今後の課題

・令和 7 年度は、体制が軌道に乗るまで毎月委員会を開催し、必要な研修・訓練を実施してきた。今後は職員の負担軽減も踏まえ、令和 7 年度の実績をもとに、適切な委員会開催回数を検討していく。
・吐物処理手順について、職員への周知徹底を図っていく。
・少人数体制時を想定した対応訓練を継続して実施していく。

ハラスメント防止

ハラスメント防止委員会：杉本　郁

１．実施内容

6 月 14 日　全体研修会

２．成果・状況

世話人が利用者に対して、他の世話人の悪口を言うハラスメントがあった。利用者という立場の弱い相手に対して、職員間の対立や悪評を吹き込む行為は、精神的な負担を与える「精神的ハラスメント」に分類される。

・利用者が職員間の対立に巻き込まれたり、不安や混乱を感じる。
・利用者が特定職員を不当に避けたり、支援に支障が出る。
・利用者の生活環境が不安定になり、心理的負担が増す。
・職場の秩序を乱し、サービスの質を低下させる。

ハラスメントを受けた世話人の人格を傷つける言動や精神的圧力を与える行為を問題と位置づけ、調査（聞き取り)、指導を行い研修を受講してもらった。

３．総括・今後の課題

■総括

本年度は、ハラスメント防止に向けて研修の実施、相談窓口の明確化、記録様式の整備を進め、職員の理解促進と相談しやすい環境づくりが進展した。

■今後の課題

•職員間での理解度・対応力の差が残っており、実践的な研修の強化が必要。
•相談体制への信頼性向上と、相談後のフォローの充実が求められる。
•管理職の初期対応力を高めるため、より専門的な研修が必要。
•カスタマーハラスメント対策の実務運用を明確化し、迷った際に相談できる体制を整える。
•ハラスメント防止を組織文化として定着させるため、継続的な啓発と職場環境の点検が必要

ライフ・ステージ　あおぞらセンター（生活介護）

サービス管理責任者：桑原　くみ

１．利用者状況

区分別

定員	現員	区　　分						
		無	1	2	3	4	5	6
２０	１８			1	3	8	5	3

重度加算対象者Ⅱ　　3 名　　重度加算対象者Ⅲ　　6 名

新規利用者　　1 名　　・　　退所利用者　　0　名

年齢別

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代	合計
男			3	6	2		1		１２
女			1	3	1	1			6

２．実施内容

・毎朝の散歩、体操教室・日々のラジオ体操を取り入れ体力づくり。
・作業活動を通して、身だしなみや言葉使い、他社との協力を促し本人が持っている作業能力を活かせるよう言葉かけをしていく。
・歌や、陶芸・映画鑑賞・外出行事も取り入れ、作業のメリハリを付け余暇も充実させていく。
・手洗い・消毒、感染時にはマスク着用、歯磨き支援等、活動時間の中で生活スキルが少しでも向上できるよう、見守りや言葉かけをしていく。

３．成果・状況（行事含む）

・朝の散歩や体操教室・ラジオ体操など体力づくりに日々取り組んでおり、新しい活動内容を取り入れて利用者が興味を持って取り組めるよう工夫をしている。
・高知県特産品販売(株）の食品内職では衛生面に配慮し、一つ一つの動作を慎重に確認しながら慎重に取り組んでおり、やりがいを持って取り組む事が出来ており、利用者、一人ひとりの特性や健康状態に配慮しながら安心して日中活動に参加できるよう取り組んでいる。

行　　事	
４月１７日	ライオンズクラブ　シネコン映画鑑賞
６月１２日	土佐市加茂川親水公園へあじさい鑑賞

8 月 21 日	流しそうめん
9 月 11 日	鏡川源流憩いの広場へ川遊び
10 月 29 日	芋ほり
11 月 27 日	焼き芋
12 月 25 日	クリスマス会
3 月 26 日	お花見ドライブ



・避難訓練実施日…　6 月　4 日（火災訓練）
10 月 29 日　（火災訓練）
1 月 21 日（洪水訓練）
2 月 18 日（火災訓練）



・感染訓練実施日…　8 月 21 日　（ＢＣＰ感染症机上訓練）
11 月 17 日　（感染症予防・手洗い消毒）

４．総括・今後の課題

利用者の特性や身体状況を踏まえながら、安全で安心できる日中活動の提供を行うとともに、利用者の意思を尊重した支援を継続していく。また、支援方法の整理や職員間の情報共有を進め、支援の質の向上と安定した事業運営に努める。支援時間の確保に向けた体制の整理を行い、利用者にとって無理のない活動環境の整備を進める。

ライフ・ステージ　春乃群青（生活介護）

管理者：林　愛佳

１．利用者状況

区分別

定員	現員	区　　分						
		無	1	2	3	4	5	6
20	15				3	1	7	4

重度加算対象者Ⅱ　4 名　　重度加算対象者Ⅲ　6 名（内一人 18 点以上）

新規利用者　0 名　・　退所利用者　1 名

年齢別

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男		1	5	4	1	1			12
女				2		1			3

2．実施内容



・利用者一人ひとりの特性や身体状況、生活状況に応じた個別支援を実施し、安心して日中活動に参加できる環境づくりに取り組んだ。
・花卉栽培、手袋製造、薬味入れ作業だけでなく、毎日の散歩、創作活動、体操、歌なども継続し、利用者の体力や特性に配慮しながら、生活リズムの安定や役割づくりにつながる支援を行った。また、入浴支援や健康状態の把握、グループホームとの情報共有を行い、生活全体を見据えた支援に努めた。
・強度行動障害のある利用者については、ケース検討や支援共有を行い、行動の背景理解や環境調整を意識した支援に取り組んだ。利用者が安心して活動できるよう、事前の声かけや予防的支援を行いながら、安全面にも配慮した支援を実施した。
・個別支援計画の見直しやモニタリングを実施し、利用者の状態変化やニーズ把握に努めた。

3．成果・状況（行事含む）



・日々の支援の中でアセスメントや情報共有を行うことで、利用者一人ひとりの特性や行動背景について職員間で共通理解を深めることができた。

・強度行動障害のある利用者については、環境調整や支援方法の共有を行うことで、安心して活動に参加できる場面が増え、統一した支援につながった。また、利用者の体調や精神面の変化について、グループホームや関係機関と情報共有を行いながら支援を実施することで、生活面を含めた継続的な支援につながった。
・行事や余暇活動についても、利用者の特性や安全面に配慮しながら実施し、気分転換や活動参加の機会づくりにつながった。

行　　事	
9月15日	地域の敬老会へ出席
11月21日	本山へ。バーベキュー、作品鑑賞、紅葉鑑賞
12月16日	桂浜水族館、外食
12月25日	クリスマス会
3月　5日	起震車体験

・避難訓練実施日…　６月　４日（大雨による避難訓練。併せて避難確保計画に基づく訓練を実施）
１０月　８日（地震による火災訓練）
２月１３日（消防立ち合い火災訓練）
・感染訓練実施日…　８月１３日（ノロウィルス。吐しゃ物処理）
１１月２０日（感染症予防。手洗い消毒）



４．総括・今後の課題

利用者の重度化・高齢化及び支援ニーズの多様化に伴い、より専門的な支援力や職員間での支援共有が求められている。特に、強度行動障害のある利用者への支援については、利用者本人の行動だけではなく、環境や関わり方を含めた背景理解を深め、安心して過ごせる環境づくりを継続していく必要がある。

また、職員によって支援方法や対応に差が出ないよう、ケース検討や情報共有を継続し、統一した支援体制づくりに取り組んでいく必要がある。

今後、群青の風２棟目・３棟目の整備に伴い、利用者の増加が見込まれることから、日中活動の受け入れ体制や活動内容、支援方法について工夫していく必要がある。利用者一人ひとりが安心して活動に参加できる環境づくりを継続するとともに、利用者の状態や特性に応じた柔軟な支援体制の整備に取り組んでいく。





ライフ・ステージ　蒼空舎（就労継続支援Ｂ型）

管理者：黒沢　圭子

１．利用者状況

区分別

定員	現員	区　　分						
		無	1	2	3	4	5	6
40	42	12		9	9	11	1	

新規利用者　２名　・　退所利用者　１名

年齢別

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代	合計
男	2	6	8	3	5	3			27
女		2	9	3	1				15

2．実施内容



スポーツ大会に向けて合同練習

・利用者同士の障害特性に配慮した作業環境の調整
（仕切りの設置、見守り体制の強化、休憩スペースの分離等）
・特別支援学校より 3 名、その他 2 名の実習生を受け入れた
・ヒヤリハットの定期的な取り組み
・作業工程、役割分担、委託料の見直し
・ISO9001 の認証撤退（ファクトリー/よさこい工房）
・グループホームとの意見交換による献立内容の改善（配食）
・食品加工事業の衛生管理、品質管理面の検討（よさこい工房）
・屋外作業における猛暑対策、熱中症対策の徹底
・畑事業における作業体制及び管理業務の見直し



ライオンズ映画招待
インタビュー中

3．成果・状況（行事含む）

・利用者支援については、利用者同士の相性や対人関係に配慮し、作業場所や休憩場所を調整したことで、落ち着いて作業に取り組める環境づくりにつながった。
・実習受入れを通して、作業体験や事業所理解の機会につなげることができた。また、1 名については、3 月に特別支援学校を卒業後、利用開始につながった。一方で、実習生の受入れ人数は減少傾向にあり、今後も学校等へ積極的な情報発信や関係づくりを行い実習につなげていくことが必要である。
・ヒヤリハットに定期的に取り組むことで、小さな気づきや利用者の変化を職員間で共有し、事故防止や支援方法の見直しにつなげることができた。一方で、日々の慌ただしさの中で、利用者の思いや小さな訴えを十分に拾いきれなかった場面もあり、今後も丁寧な関わりや情報共有の充実が必要である。
・作業工程や役割分担、委託料の見直しを行うことで、限られた人員の中でも安定した作業継続につなげることができた。
・ISO9001 については、事業内容の見直しや事業縮小の方向性を踏まえ、認証を撤退した。これにより、現在の事業規模や実態に応じた運営体制を見直す機会となった。
・配食事業については、グループホームと定期的に意見交換を行い、献立内容や提供方法の改善に取り組むことができた。
・食品加工事業については、衛生管理や品質管理上の対応が求められることから、利用者の作業として

安定的に位置づけることが難しく、目標にしていた利用者増員に繋げることはできなかった。
・屋外作業については、猛暑による熱中症リスクが高い中、水分補給や休憩時間の確保、作業時間の調整等を行い、大きな体調不良や事故なく作業を行うことができた。
・畑事業については、職員の手を多く要する部門であり、人的・管理的負担が大きいことから、今後の事業運営について検討が必要であることを確認した。
・各行事については、利用者の気分転換や交流の機会となった。また、市役所での販売活動では、地域の方と関わる機会となり、社会参加ややりがいにつながった。

行　　事	
4月	ライオンズクラブ映画招待（TOHO シネマズ高知）
8月	プール（障害者スポーツセンター）
8月	流しソーメン（蒼空舎）
9月	バーベキュー（蒼空舎）
１２月	クリスマス会（蒼空舎）茶話会（ファクトリー）
通　年	市役所販売活動

・避難訓練実施日…＜蒼空舎＞
7月10日（大雨による避難訓練。併せて避難確保計画に基づく訓練を実施）
10月 8日（地震による火災訓練）
2月10日（消防立ち合い火災訓練）
＜ファクトリー＞
10月29日（出荷に際し、消防計画による避難体制を確立するための訓練実施）
1月　9日（大雨による洪水避難訓練。避難確保計画に定めた訓練の実施）
2月18日（消防立ち合い火災訓練）

・感染訓練実施日…8月6日＜ファクトリー＞13日（蒼空舎）
ノロウイルスを想定した嘔吐物処理訓練
11月11日（蒼空舎）18日（ファクトリー）
感染予防、手洗い消毒訓練

４．総括・今後の課題

令和7年度は、利用者一人ひとりの障害特性や体調面に配慮しながら、安心して作業に取り組める環境づくりに努めた。作業場所や休憩場所の調整、見守り体制の強化等を行うことで、落ち着いて作業に取り組める場面が増え、事故防止や安定した利用につなげることができた。
また、ヒヤリハットの取り組みや各種訓練を継続的に実施することで、防災・感染対策・事故防止への意識向上につながった。特に、猛暑対策や熱中症対策については、作業時間の調整や休憩、水分補給を徹底し、大きな事故なく作業を継続することができた。

事業面では、作業工程や役割分担、委託料の見直しを行い、限られた人員の中でも安定した運営に努めた。一方で、食品加工事業や畑事業については、人的・管理的負担が大きく、利用者支援との両立や安定運営に課題が見られたことから、今後の事業のあり方について継続した検討が必要である。また、ISO9001 認証の撤退については、現在の事業規模や実態に応じた運営体制を見直す契機となった。
実習受入れについては、特別支援学校等からの実習を通して事業所理解や利用につながる成果も見られたが、実習生数は減少傾向にあり、今後も学校や関係機関への積極的な情報発信や関係づくりが必要である。

今後については、利用者の高齢化や障害特性の多様化に対応しながら、安心して利用できる環境づくりを継続するとともに、職員間での情報共有や支援力向上に努めていく必要がある。また、事業内容や作業体制について整理・見直しを進め、限られた人員の中でも、利用者支援と安定した事業運営の両立を図っていきたい。

ライフ・ステージ　第２あおぞら（就労継続支援Ｂ型）

管理者：下元　真人

区分別

定員	現員	区　　分						
		無	1	2	3	4	5	6
20	19	8			4	6	1	

新規利用者　1 名　・　退所利用者　1 名

年齢別

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代	合計
男		3	6	2	1	1			13
女			2	1	2	1			6

２．実施内容

・コロナ禍以降、店舗売上の低迷が続いていた。令和７年度はリサイクル事業の立て直しを重点課題とした。販売方法の工夫やチラシ配布、接客メンバーの育成等に取り組んだ。
・新たに株式会社ムルム(在宅型有料老人ホームうらら)の清掃作業をスタートした。
・公益財団法人日本財団様の福祉車両助成事業により、日産セレナ（定員８名）を整備した。

３．成果・状況（行事含む）



・リサイクル店舗の来店客数は増加し、売上も当初の目標を達成することができた。これにより、リサイクル事業の再活性化に一定の成果を収め、今後の安定的な運営に向けた基盤を築くことができた。
・新しい清掃業務の立ち上げに伴い、清掃作業に従事するメンバーの育成にも取り組んだ。その結果、業務遂行に必要な技能や意識の向上が見られ、一定の成果を収めることができた。今後も継続的な育成を通じて、質の高い清掃作業の提供を目指してゆく。
・清掃作業のメンバー送迎にセレナを利用、メンバーからは乗り心地がいい、クーラーがよく効いて快適との声をいただいている。
・避難訓練実施日

７月２４日（風水害・台風等の水害・土砂くずれに対して避難訓練）
11 月１５日（地震による火災・津波訓練）
２月１９日（地震・洪水による避難訓練。併せて避難確保計画に基づく訓練実施）

・感染訓練実施日

８月　６日（ノロウィルス吐しゃ物処理）
11 月 15 日（ノロウィルス手洗い消毒）

４．総括・今後の課題



・収益増はリサイクル店舗の売り上げに依存し、持続的な安定性に欠ける側面もあり、メンバーの工賃向上には十分に反映されていない。今後は、安定した授産収入の維持を図るとともに、収益を工賃へ適切に還元し、メンバーの処遇改善につなげていくことを目標としたい。
・新たに３名の職員（うち１名は技能実習生）を迎え入れた。即戦力として業務に取り組み、日々の作業に大きく貢献している。その一方で、障害の特性等に関する知識不足の面も見受けられるため、研修を通じて理解を深め、スキルアップを図っていく必要がある。

ライフ・タウン　あおぞらホーム（介護サービス包括型）

管理者：杉本　郁

１．利用者状況

区分別

定員	現員	区　　分						
		無	1	2	3	4	5	6
１０４	８５	0	3	２７	２３	２１	１０	1

重度加算対象者Ⅱ　　名　　重度加算対象者Ⅲ　７名

新規利用者　　３名　　・　　退所利用者　　３名

年齢別

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代	合計
男	2	１４	１２	１０	7	7	1	0	５３
女	1	4	１０	9	3	5	0	0	３２

２．実施内容

■生活支援

・利用者の生活リズムに合わせた起床・就寝支援、服薬管理、身だしなみ支援を実施

・栄養バランスを考慮した食事提供（朝・夕）

・清掃・洗濯・金銭管理など、自立に向けた生活スキルの習得支援



■健康管理

・定期的な健康チェック（体温・血圧・体調確認）

・通院同行、服薬管理

・感染症対策（手洗い指導、消毒、換気の徹底）

■余暇・社会参加支援

・余暇活動（初詣　お花見、ビアホール、忘年会　など）の企画・実施

・地域住民との交流機会の創出



■就労・日中活動との連携

・就労先・作業所との連絡調整

・生活リズムの安定化支援

3．成果・状況（行事含む）

■生活面の向上

・規則正しい生活リズムが定着し、遅刻・欠勤が減少
・洗濯・掃除などの家事スキルが向上し、自立度が上昇
・金銭管理の理解が進み、無駄遣いが減少

行　　事	
1月　1日	温泉日帰り旅行＜黒潮本陣＞
5月１１日	日帰り旅行＜レオマワールド＞
7月２７日	ビアホール
１１月２３日	高知コーラス合笑団
１２月　7日	アンサンブルソレイユ混声合唱団
１２月２４日	クリスマスホームパーティ

・避難訓練実施日
火災による避難訓練…　①5 月 20 日～6 月 3 日②11 月 26 日～12 月 3 日
地震による避難訓練…　①3 月 2 日～3 月 18 日
大雨・土砂による避難訓練…①8 月 23 日～9 月 9 日

辰ノ尾団地防災訓練（炊き出し）…11 月 9 日

・感染訓練実施日…　9月１６日（ノロウィルス。吐しゃ物処理）
１１月１１日（感染症予防。手洗い消毒）

4．総括・今後の課題

本年度のグループホーム運営では、利用者の安定と自立支援に一定の成果が見られた。特に生活リズムの改善、健康状態の安定、社会参加の拡大は顕著であり、利用者の QOL 向上に寄与した。次年度は個別支援計画の質向上と地域連携の強化を図り、より安心して暮らせるホーム運営を目指す。

ライフ・タウン　**蒼空舎ホーム（介護サービス包括型）**

管理者：下元　真人

１．利用者状況

区分別

定員	現員	区　　分						
		無	1	2	3	4	5	6
9 名				3 名	4 名			

新規利用者　　1 名　　・　　退所利用者　　1 名

年齢別

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代	合計
男			2 名		4 名	1 名			
女									

２．実施内容

生活支援

・利用者の生活リズムに合わせた起床・就寝支援、服薬管理、身だしなみ支援を実施

・栄養バランスを考慮した食事提供（朝・夕）

・清掃・洗濯・金銭管理など、自立に向けた生活スキルの習得支援

健康管理

・定期的な健康チェック（体温・血圧・体調確認）

・通院同行、服薬管理

・感染症対策（手洗い指導、消毒、換気の徹底）

余暇・社会参加支援

・余暇活動（初詣　お花見、ビアホール、忘年会　など）の企画・実施

・地域住民との交流機会の創出

就労・日中活動との連携

・就労先・作業所との連絡調整

・生活リズムの安定化支援

３．成果・状況（行事含む）

生活面の向上

・規則正しい生活リズムが定着し、遅刻・欠勤が減少

・洗濯・掃除などの家事スキルが向上し、自立度が上昇
・金銭管理の理解が進み、無駄遣いが減少

行　　事

１月　１日	温泉日帰り旅行＜黒潮本陣＞
５月１１日	日帰り旅行＜レオマワールド＞
７月２７日	ビアホール
１２月２４日	クリスマスホームパーティ

・避難訓練実施日
火災による避難訓練…　①10 月 16 日
大雨・土砂による避難訓練…①6 月 7 日

・感染訓練実施日
９月１６日（ノロウィルス。吐しゃ物処理）
１１月１１日（感染症予防。手洗い消毒）

４．総括・今後の課題

本年度のグループホーム運営では、利用者の安定と自立支援に一定の成果が見られた。特に生活リズムの改善、健康状態の安定、社会参加の拡大は顕著であり、利用者の QOL 向上に寄与した。次年度は個別支援計画の質向上と地域連携の強化を図り、より安心して暮らせるホーム運営を目指す。

ライフ・タウン　群青の風（日中サービス支援型）

管理者：沖　太志

１．利用者状況

区分別

定員	現員	区　　分						
		無	1	2	3	4	5	6
8 名	8 名						4 名	4 名

重度加算対象者Ⅱ　4 名　　重度加算対象者Ⅲ　4 名

新規利用者　0　名　・　退所利用者　0　名

年齢別

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代	合計
男			2 名	3 名		1 名			
女				2 名					

2．実施内容

■生活支援

・強度行動障害特有の障害特性を利用者一人一人の支援計画を作成し生活リズムに合わせた入浴支援・起床・就寝支援、服薬管理、身だしなみ支援等を作業手順書に則った支援の実施
・栄養バランスを考慮した食事提供（朝・夕・休日の昼食）
・清掃・洗濯・金銭管理の支援

■健康管理

・看護師による、毎朝のバイタルの健康チェック（体温・血圧・体調確認）
・通院同行、服薬管理
・感染症対策（手洗い指導、消毒、換気の徹底）

■余暇・社会参加支援

・余暇活動（クリスマス会・誕生日会・地域の夏祭りの参加）の実施

■休日の過ごし方

・朝の散歩・職員同行での買い物支援・食堂でのユーチューブでの体操・音楽鑑賞など

3．成果・状況（行事含む）



■生活面の向上

・安定した生活リズムの構築。
・24 時間体制での見守りの実施。

行　　事

誕生日月の利用者の誕生日会

１１月２３日　　高知コーラス合笑団
１２月　７日　　アンサンブルソレイユ混声合唱団
１２月２４日　　クリスマスホームパーティ



避難訓練実施日

・令和７年６月７日（土）
・令和７年１０月１９日（日）
・令和８年３月 22 日（日）

感染訓練実施日

・令和７年６月１５日（日）全体研修

・令和７年８月 27 日（月）感染訓練

４．総括・今後の課題

本年度よりスタートのグループホーム運営では、利用者８名が強度行動障害の利用者で全員が加算対象者で、支援者側も強度行動障害研修の基礎と実践を終了した職員を中心とした支援に一定の成果が見られた。

次年度は群青の風Ａ棟・Ｂ棟が完成し、入居者数２０名になるので、個人個人の意思を尊重し安定した生活環境の構築を目指す。

ライフ・タウン　群青の風（短期入所）

管理者：沖　太志

１．利用者状況

区分別

定員	現員	区　　分						
		無	1	2	3	4	5	6
１名	１名					１名	１名	

重度加算対象者Ⅱ　　１名　　重度加算対象者Ⅲ　　０　名

短期入所利用率

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
人数					１名	１名	１名	２名	２名	１名	２名	２名
日数					２日	２日	２日	８日	31 日	31 日	28 日	31 日

２．実施内容

・高知市障害福祉課からの緊急の受け入れの対応の実施。

・障害者家族のレスパイトケアの受け入れ。

・入居の向けた体験入居。

・看護師による毎朝のバイタルチェックの実施及び体調管理。

３．成果・状況（行事含む）

・緊急の受け入れに伴う生活環境の把握及び職員間の共有
・体験入居の持参物の確認
・服薬管理の実施。

４．総括・今後の課題

・現在、建設中のＡ棟・Ｂ棟に各１名の短期入居者の受け入れが可能である。相談支援事業所と連携を取りながら、常に受け入れを実施し、満床を維持できる様取り組んでいく。

ライフ・サポート　あおぞら（相談支援事業）

管理者：林　幸孝

１．実施内容

・計画相談の対応―サービス更新、モニタリング時の聞き取り、書類の作成、担当者会の開催、新規サービスの対応、事業所の見学、事業所変更の対応、体験の段取り等。
・高知市委託調査の対応―サービス更新時に委託調査の聞き取り項目の欄を埋めていき、調査を行う。
・いの町計画相談委託の実施―新規依頼３件、また、継続して 40 名の特定相談の対応を行った。
・勉強会の実施　―機能強化型で求められている週に１回程度の個々のケースについての相談の会、特定相談メンバーでの勉強会、南部と合同勉強会などを行った。
・研修会への参加―法人内、外部での研修会への参加、WEST 西地区の研修勉強会の参加。また相談支援専門員初任者研修１名資格取得。相談支援専門員現任研修１名資格取得。
・その他―通院同行、住まい変更時の引っ越しの対応、困難事例への対応、緊急担当者会の開催、ケアカンファレンスの参加など。

２．成果・状況

計画相談対応時には、ご本人・保護者様の思いと将来的な展望及びモニタリングも含め、各支援機関への計画書の提示を行うとともに障害特性に合わせた支援方法の工夫等の支援依頼を行った。

計画相談令和７年度新規契約数は 17 件。内訳として新卒者５名、相談センター依頼５名、いの町依頼３名、相談事業所変更３名、その他１名となっている。

相談支援専門員初任者、現任でそれぞれ１名ずつ資格取得することで機能強化型がⅢ→Ⅱに変更になり、単価が上がった。また、内部勉強会、WEST 勉強会、各研修に参加したことで、支援者１人１人のスキルアップを図る事ができた。

・感染訓練実施日…感染訓練実施日…１２月１８日（感染症予防）

３．総括・今後の課題

計画相談の依頼が色々な所から多く問い合わせを頂いた中で断ったケースもたくさんあったが、17 件の新規を受け入れ対応を行った。しかし、それだけサービスを必要としている人が多くなっているのと同時に、事業所変更３名は、事業縮小や廃止の為の受け入れだったので、相談支援事業所が撤退している所も多く地域課題となっている。基幹との連携や地域課題の抽出を求められる事も増えているので、そのあたりの強化も取り組む必要がある。また、サポーターとして４月から新任した職員が初任者を取ることで相談支援専門員の人数が増え機能強化を上げる事ができたが、専門的な所はまだまだ勉強不足なので、継続して内部勉強会や外部での勉強会、研修等に参加すること、同行対応やスーパービジョンを行うことで支援者１人１人のスキルアップを今以上に図る必要がある。

南部障害者相談センター（高知市委託）

管理者：中越　啓介

１．実施内容

・総合相談窓口
・福祉サービスの利用支援
・専門機関の紹介、各分野の機関への適切なつなぎ
・社会資源を活用するために必要な支援
・地域支援業務

２．成果・状況

・市民だけでなく関係機関が相談しやすい関係づくりを目指してきたこともあり、多様で重層的な相談を受けるようになった。
・南部エリアでの交流会が今まで実施されたことがなく、こうち福祉会が委託を受けて初の実施。それぞれの事業所の特色・空き状況の報告、相談支援専門員の横のつながりを深めた。
（R8.2 月　50 人ほど参加）
・精神障がいがある方から「体を動かしたい」と相談を受け、障がい者スポーツセンターへ繋ぎ、精神バレー、ボッチャの体験、県スポーツ大会へエントリーをされる等、障がい者スポーツの普及促進へ協力。
・障害年金申請のための同行支援。一人では手続きが困難な利用者さんに対し、年金事務所へ同行することで安心して手続きをすることができた。
・障がい受容ができていないために虐待など不適切な対応をされている保護者の方へ、親御さんの気持ちを尊重しつつ、状況をみながら障害福祉サービスの説明・メリットを伝える等のアウトリーチ活動を実施したことで、現在は福祉サービスに繋がり、支援者が増え、専門的な支援を受け

ることで社会性の獲得、可能性が広がり、不適切な行動が改善。
・ＤＶ相談を受け、警察へ同行相談、公的機関へ一時保護となり、ＤＶ加害者との分離ができた。保護解除後はグループホームへ入居となり安心安全な生活を送れている。

３．総括・今後の課題

・福祉サービスが必要な人に行き届くよう、アウトリーチ活動にも力を入れていきたい。ふれあいセンター、市民会館、民協の会など積極的に参画をし、相談しやすい地域の窓口として認識していただき、虐待・ＤＶ予防、5080 問題、ひきこもり脱出支援等へ繋がるよう努めていく。